

2017年 名古屋別院 春・秋彼岸会法要のご案内

「春季彼岸会」法要

2017年3月17日(金)～23日(木)

- ◆彼岸会法要(日中) 於:本堂
3月17日、20日、23日 午前9時～
- ◆法話 於:本堂
3月17日～23日 午前10時30分～
午後1時～2時
- ◆志経(総経) 於:対面所 ※参拝接待所にて随時受付
3月17日～23日 午前9時～午後3時
- ◆法名基・法名録法要 於:奉安所
3月17日～23日 午前10時15分頃～



「秋季彼岸会」法要

2017年9月20日(水)～26日(火)

- ◆彼岸会法要(日中) 於:本堂
9月20日、23日、26日 午前9時～
- ◆法話 於:本堂
9月20日～26日 午前10時30分～
午後1時～2時
- ◆志経(総経) 於:対面所 ※参拝接待所にて随時受付
9月20日～26日 午前9時～午後3時
- ◆法名基・法名録法要 於:奉安所
9月20日～26日 午前10時15分頃～

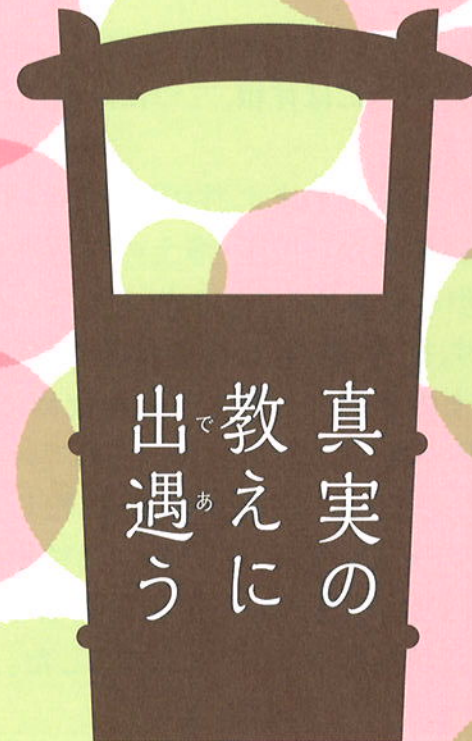


千鶴ちゃん

真宗大谷派名古屋別院(東別院)
〒460-0016 名古屋市中区橘2-8-55
TEL052-321-9201 FAX052-321-3184

お東ネット <http://www.ohigashi.net/>

お彼岸



お彼岸

— 真実の教えに出会う —

みやだ しょうじん
宮田 正深 (岐阜県・上徳坊)

一般にお彼岸とは、この娑婆世界の此岸から彼岸・浄土の世界へ向かって宗教的に歩みを進めて行くことと考えられています。しかし浄土真宗は真反対。彼岸・浄土の世界が私たちの此岸の世界へ娑婆参りをして下さる目覚めの仏事を指します。

親鸞聖人は『教行信証』のはじめに、

謹んで浄土真宗を案ずるに、二種の回向あり。一つには往相、二つには還相なり

と語っておられます。往相とは文字通り、この娑婆世界から彼岸・浄土の世界へ向かって歩みを進めることです。大切なのは還相です。従来、還相は、往相の歩みの到達した浄土の世界から衆生教化のために、娑婆世界へ帰ってくる歩みと捉えられていました。しかし近年の研究成果では、むしろ往相の歩みの内徳、背景、あるいは往相の成立根拠として還相回向を捉え味わう見方に重点が置かれるようになりました。言って

みれば、仏法に無縁であり続ける私を、念仏に生きる身へと生まれ変わらせていただく、如来の大悲心のはたらきとしての還相回向です。その意味で、お彼岸とは、彼岸・浄土の世界から目覚めを賜る、すなわち、娑婆世界を照らし出し、その根源である無明の闇を破る、そんな目覚めのはたらきとして浄土の世界が現前してくる仏事ではないでしょうか。

曾我量深師が「浄土は還相回向の世界」と語って下さいました。浄土のはたらきを賜り、法蔵菩薩による念仏救済の歴史に加えられた有難さを信知するとき、先人の「何もかも我一人のためなりき、今日一日の命尊し」(高原憲)、「我以外皆我師也」(吉川英治)という言葉が深く思い合わされます。

ある障がい者施設の学芸会で、来場者の一人が「障がい者にも社会の光を当てなくてはなりませんね!」と呟いたそうです。その発言を近くで聞いておられた施設の館長が即座に「その言葉ほど障がい者を侮辱し、自立を阻む言葉はありません。命は一人ひ

とりみんな輝いているのです。しかし私たちはそれが見えないだけです」とおっしゃいました。この言葉は、この世の中の一人ひとりの命を、光ある「独尊子」(清沢満之)として見直す浄土の世界を教えてくださいませんか。

親鸞聖人は『教行信証』の最後に、

前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え、連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す。無辺の生死海を尽くさんがためのゆえなり

と語られています。仏法を後の世に伝える、後に続く人に伝えていく。その仏の大悲の願いを自ら受け継いで、その願いに生き続けること、それが大悲を命として生きる念仏者の道ではないでしょうか。

お彼岸の仏事を、信心に生きる目覚めの時節到来と受け止める縁としたいものです。